

一般質問



下久保
議員

一、地デジ放送難視聴地域対策について
二、長崎国体への取り組み状況について

質問

一、(1)地上デジタル放送への移行の中で新たな難視聴地域が出ています。対策はどのようななされているのか。
(2)長崎県内ではNHK2局と民放4局が放送されているが、松浦地区では民放2局の放送電波が中継局にも届いていない場所が多い状況だ。地域間格差をなくすためにも放送辺地解消のための働きかけを行うべきかどうか。

二、(1)なぎなた競技の国体開催地として、施設の整備状況は現状どのように取り組まれているのか。

(2)デモスポ競技※としてどのような行事が行われ、国体期間中の予想される交流人口はどれくらいになるのか。

(3)子ども達の競技者を増やす中で、中学に入ってから取り組みがしばらくののではないか。今の中学生や今年小学校を卒業する世代には県の強化選手として指定を受けている人もある。これからの問題点や課題をどのように解消する考えがあるのか。

※デモスポ競技

デモンスポートレーションとして行われるスポーツ競技のこと

答弁

一、(1)難視聴地域と指定された分については、共聴施設をつくるなどの対応で、地上デジタル放送を受信できるように考えられております。

(2)当面の課題としては、地デジに伴う難視対策ということに集中せざるを得ません。このことは放送事業者のほうでもご検討頂いているものと思いますので、次は従来からの放送が受信できなかった地域の対策について、積極的に取り組んでいきたい。

二、(1)文化会館ふれあいホールで開催しますが、会場が手狭ということ、選手や監督等の控室となる場所を確保するためのテントの設営等が今後必要になるかと思えます。

(2)ソフトバレー競技が行われます。なぎなた競技は3日間開催され、選手、監督が320人、競技役員等大会関係者が約60人、応援者につきましては3千600人を想定しています。

(3)中学校の全員部活動参加という基本線は崩さない中で、競技人口の拡大に向けてどんなことができるのか、今後さらに積極的な取り組みをしていきたい。

一般質問



武 辺
議員

一、福岡都市圏交流促進事業について
二、生涯学習センター（きらきら21）開設10周年を迎えるにあたって

質問

一、(1)福岡ソフトバンクホークスを媒体とした事業における平成23年度の予算と財源、21年度と22年度の実績をお知らせ下さい。

(2)これまでの費用対効果というのをどういうふうに精査されていますか。この事業は単年度では効果が薄いという認識で行われていますが、では、どの時点で効果があつたと認識されますか。

(3)平成23年度中の開設を目指しておられる福岡アンテナショップ事業の予算と財源、開設へ向けた計画がどの程度進んでいるのか、基本計画の内容、開設場所、物件面積、家賃をお示し下さい。

二、12月議会で10周年イベントについては図書館だけではなく、生涯学習センターの開設も含めて考えていきたいと答弁されていましたが、23年度の当初予算には計上されていませんでした。生涯学習センターが複合施設だからこそやれる10周年イベントというのは多種多様にわたると思われしますが、市長の予算措置に対する考えをお聞かせ下さい。

答弁

一、(1)平成23年度予算は約1千200万円の広報費を県の合併交付金で考えています。平成21、22年度の実績として、福岡ソフトバンクホークスと結んだ相互交流宣言、記念メニューの制作、ゲーム及びオフィシャルスポンサー等をさせて頂きました。(2)残念ながら現時点で具体的なデータを持ち合わせていません。交流人口を新たに40万人から50万人に拡大し、その経済効果として28億円程度を目指した取り組みをしながら、効果を算出していきたい。

(3)23年度の予算はまだ計上しておりませんが、6月の議会までには提示できるようにしたい。基本構想として、情報発信、マーケティング調査、既存の特産品の販売により収益を上げるといった大きな3つの機能を持たせ進めようと思っています。場所は、福岡市中央区にある天神テルラというビルで、家賃等については、これからの協議になります。

二、当初予算に計上するまでにその計画がまとまらなかったということ、責任を持って、補正で予算措置を行います。